

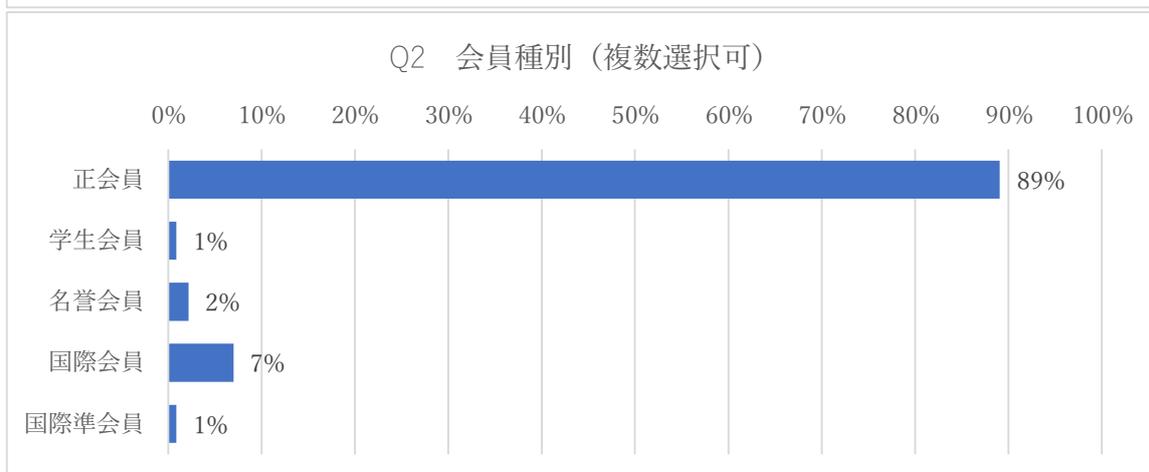
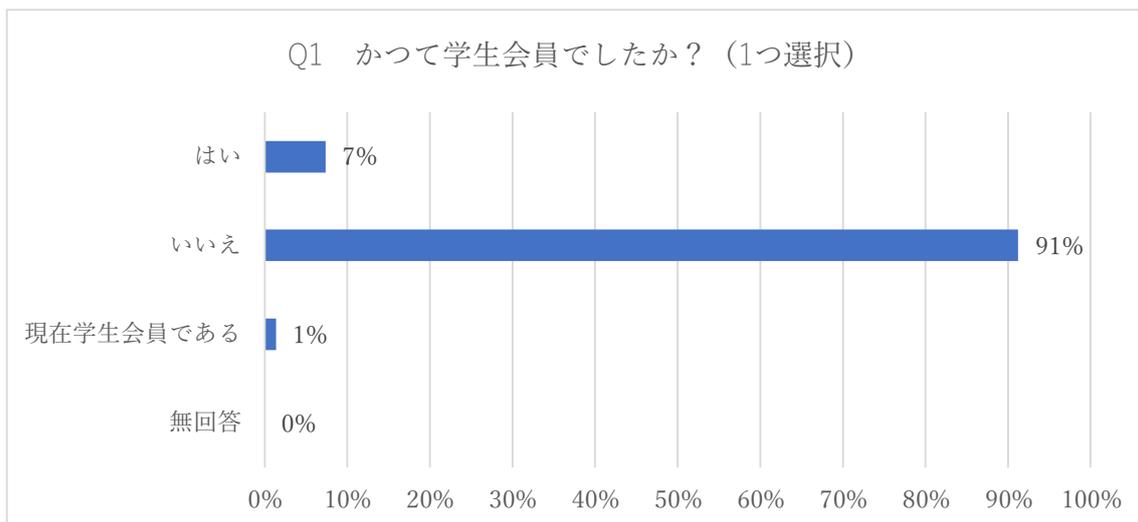
日本応用地質学会 学会員アンケート結果

◆ アンケート緒言

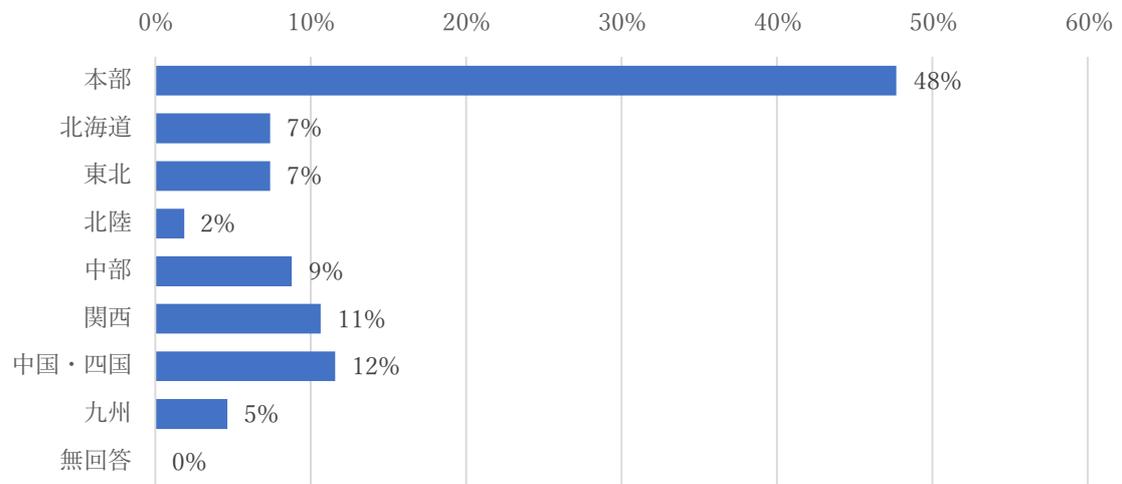
- ・ 回答期間：2019年8月から11月末日
- ・ 対象：正会員、学生会員、名誉会員
- ・ アンケート手法：株式会社マクロミル web アンケートツール「Questant」
- ・ 回答者数：216名

◆ アンケート結果

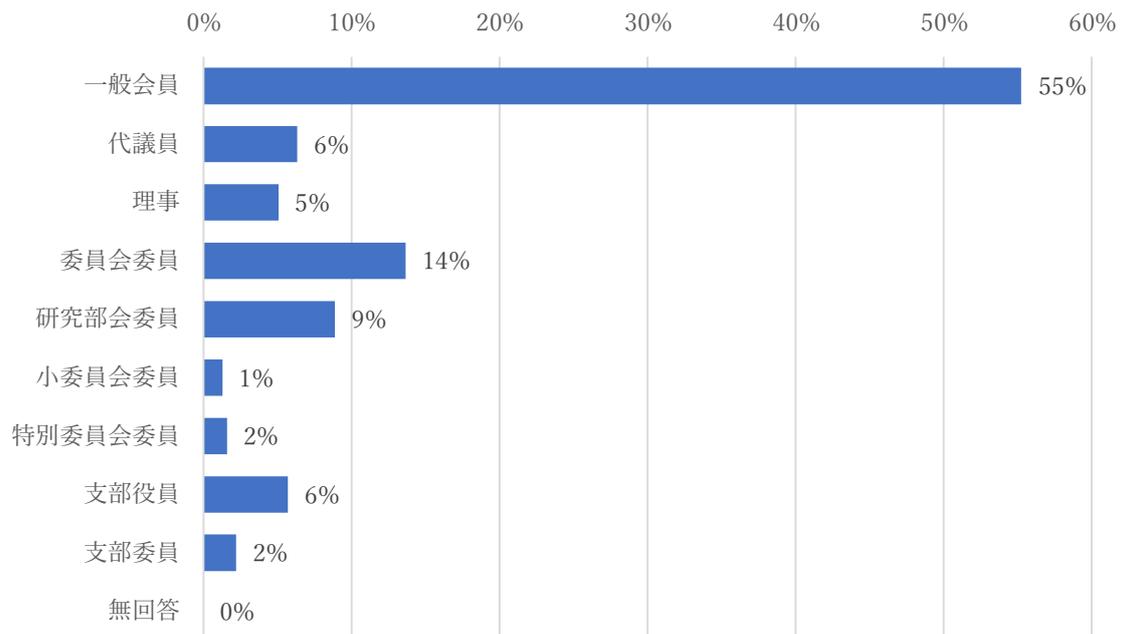
1. 会員情報： 会員種別・所属などの属性を教えてください。

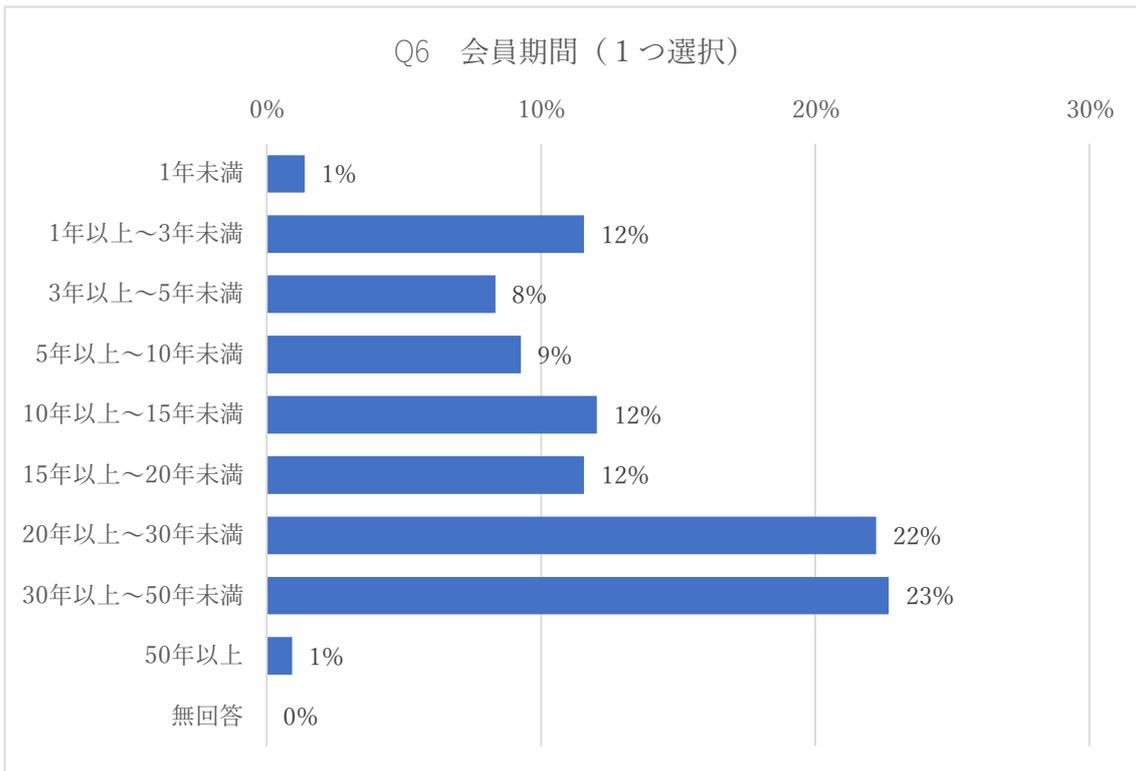
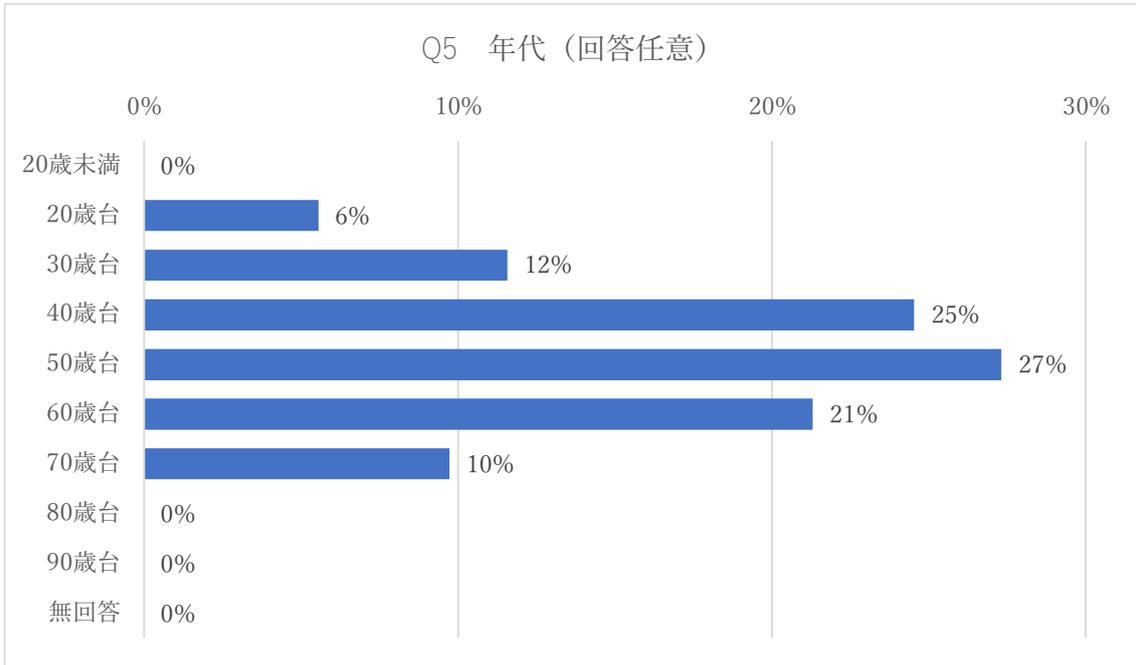


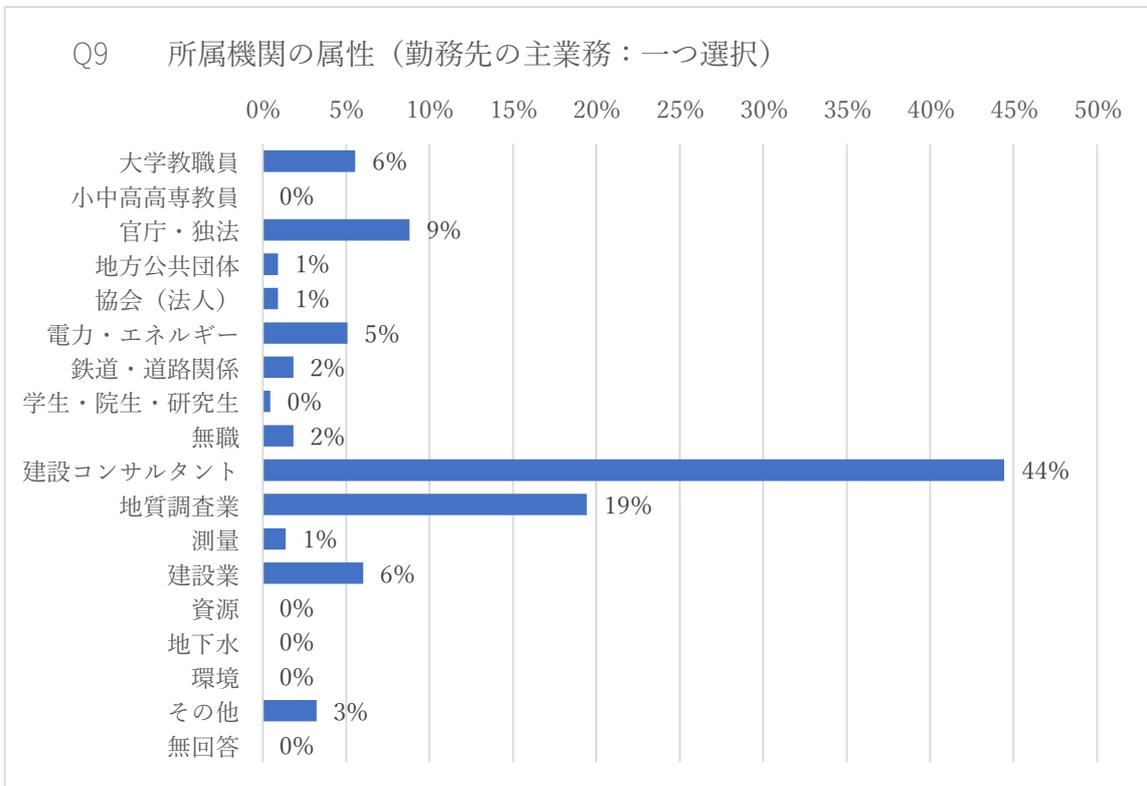
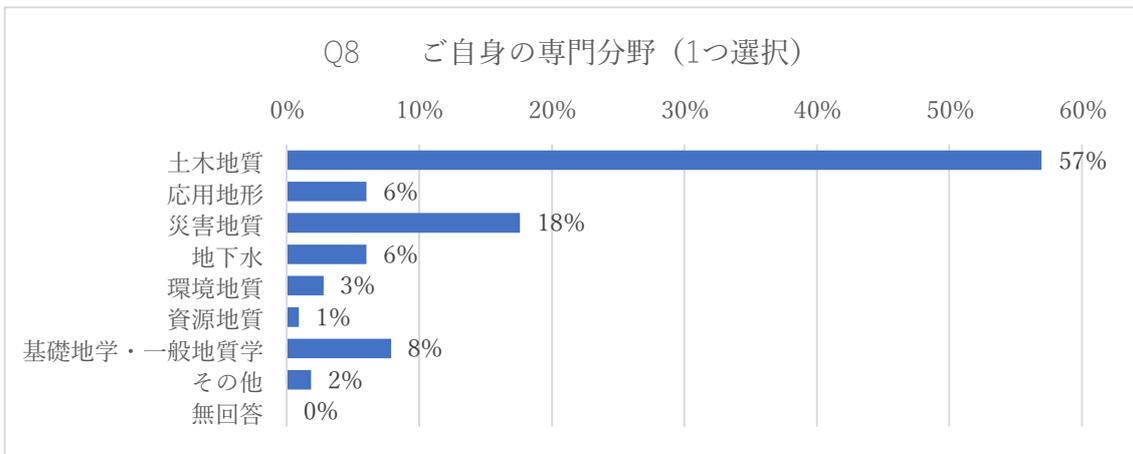
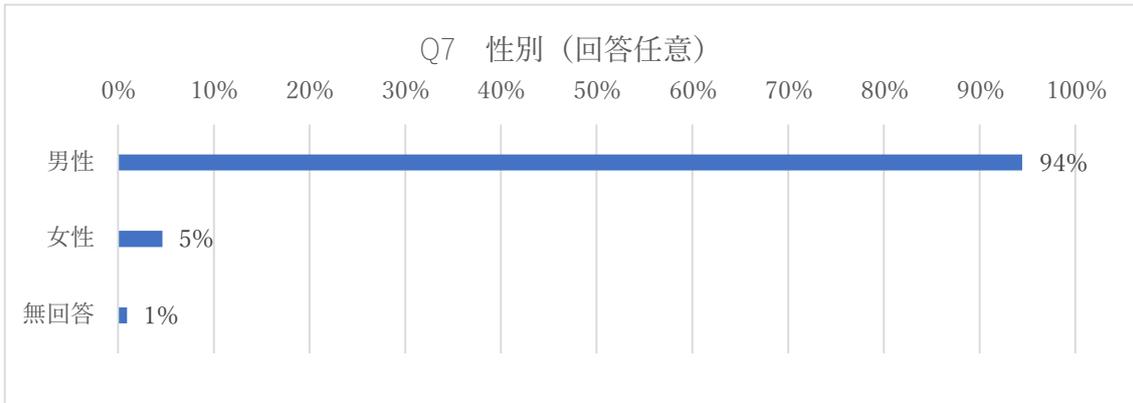
Q3 所属支部 (1つ選択)



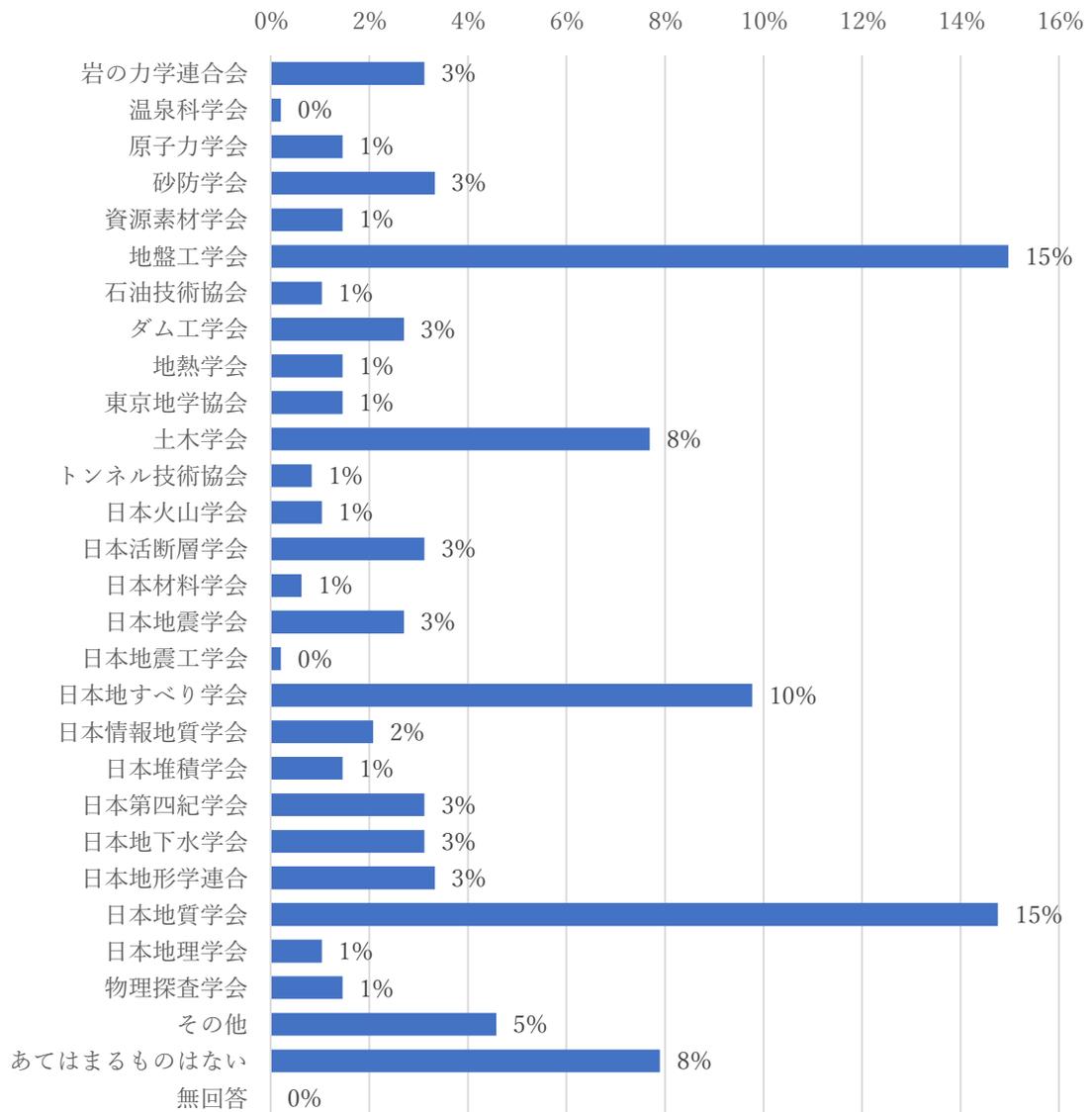
Q4 現在の学会活動 (複数選択可)



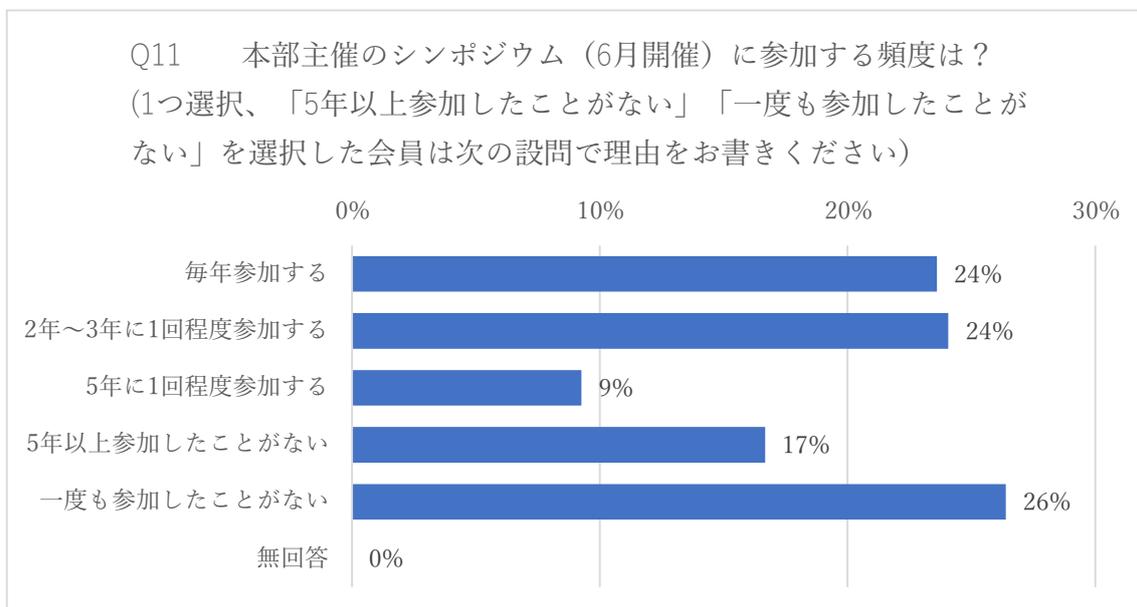




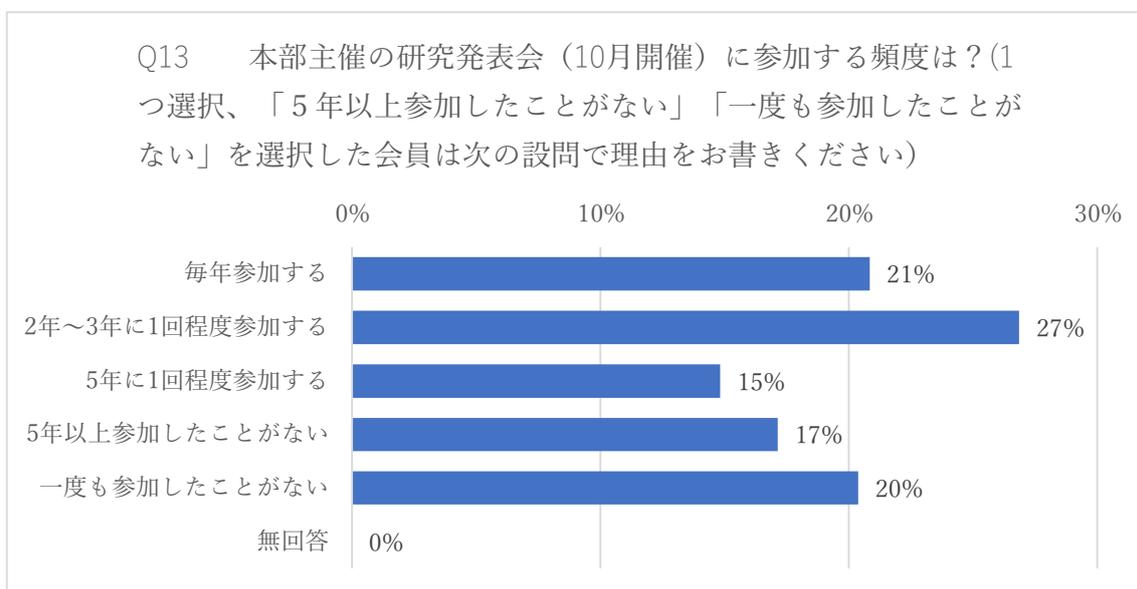
Q10 加入学会〔国内・あいうえお順〕（複数選択可）



2. 現在の学会活動について： 会員の皆様と日本応用地質学会のつながりについて教えてください。

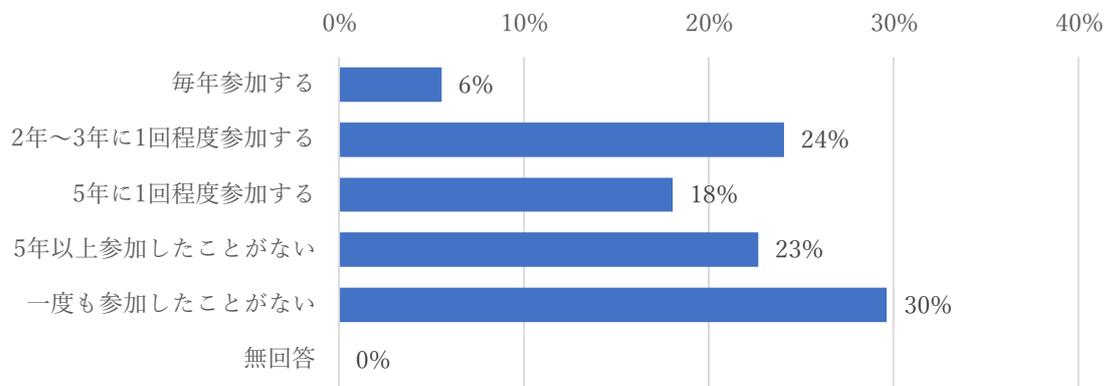


Q12：「参加したことがない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略



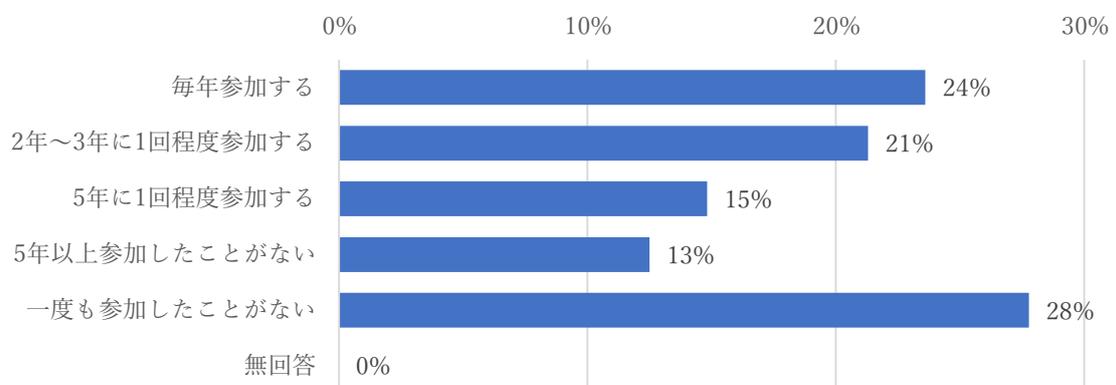
Q14：「参加したことがない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q15 本部主催の講習会・見学会等に参加する頻度は？(1つ選択、「5年以上参加したことがない」「一度も参加したことがない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)



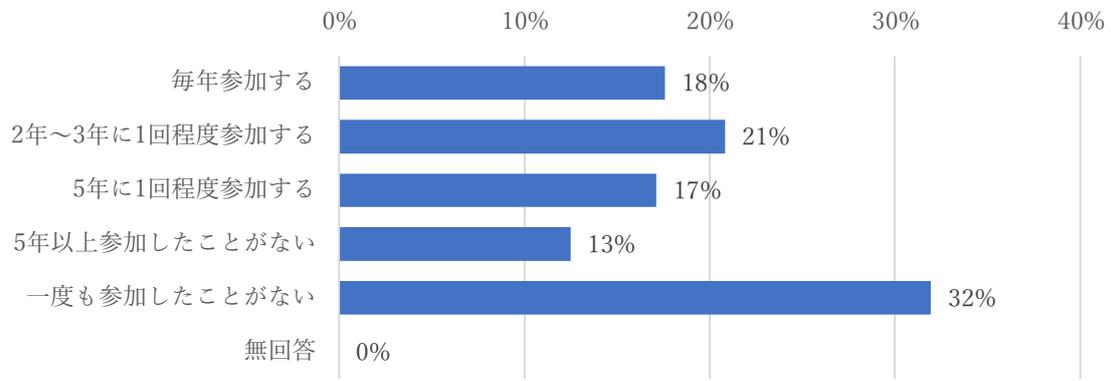
Q16:「参加したことがない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q17 支部主催の総会・シンポジウムに参加する頻度は？(1つ選択、「5年以上参加したことがない」「一度も参加したことがない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)



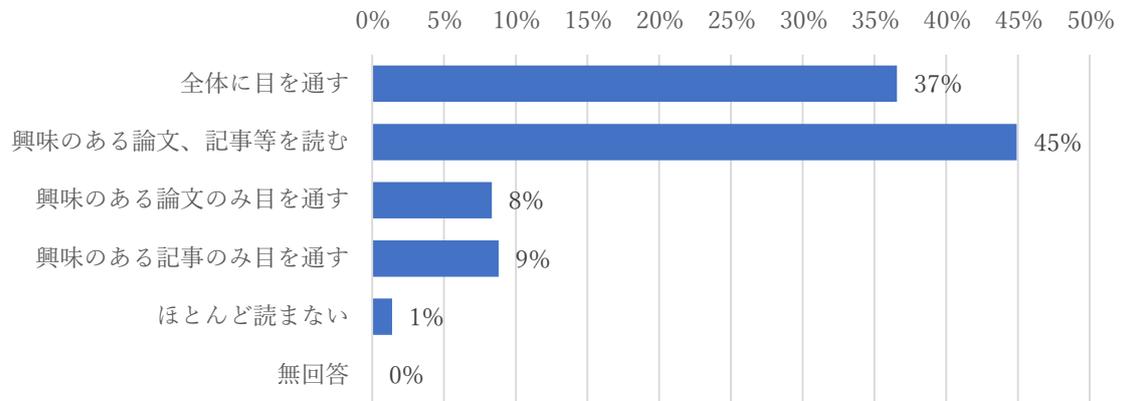
Q18:「参加したことがない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q19 支部主催の講習会・見学会等に参加する頻度は？（1つ選択、「5年以上参加したことがない」「一度も参加したことがない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください）



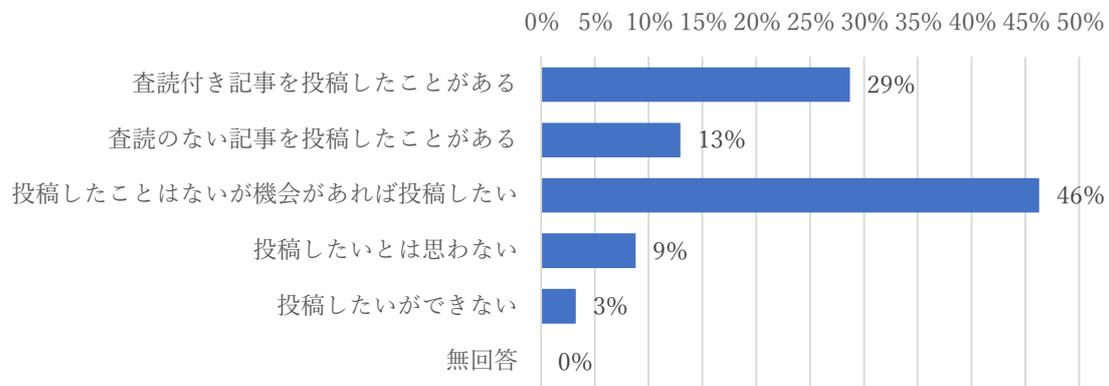
Q20：「参加したことがない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q21 学会誌「応用地質」についてお聞きします。（「ほとんど読まない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください）



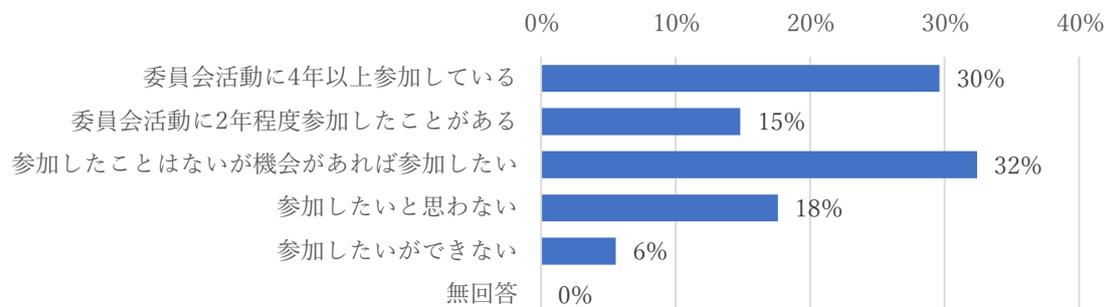
Q22：「ほとんど読まない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q23 学会誌「応用地質」への投稿についてお聞きします。(1つ選択、「投稿したいとは思わない」「投稿したいができない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)



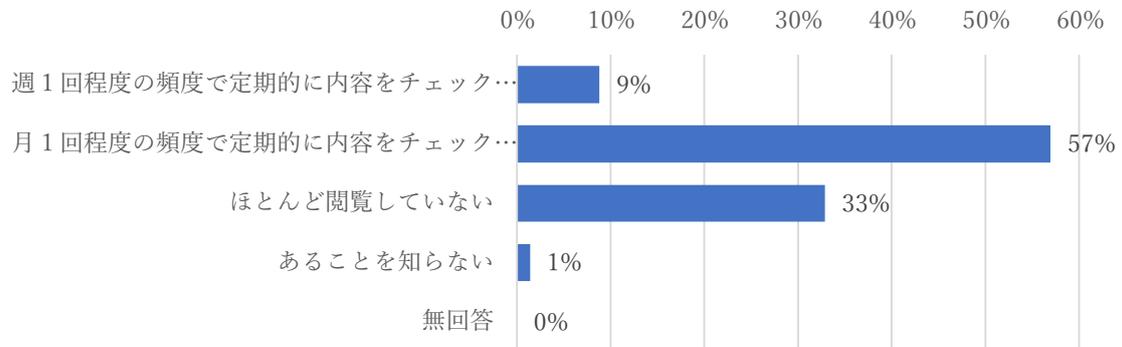
Q24:「投稿しない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q25 学会の委員会活動（研究部会、小委員会を含む）についてお聞きします(1つ選択、「参加したいと思わない」「参加したいができない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)



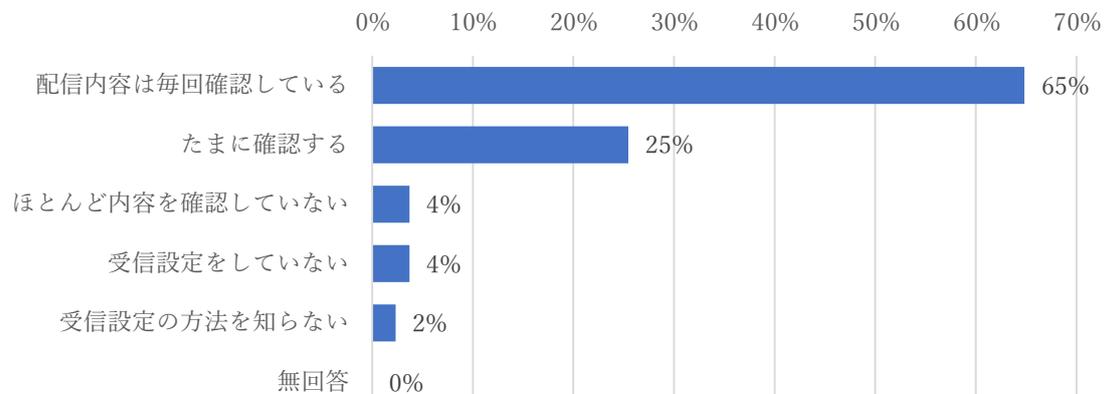
Q26:「参加しない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q27 ホームページについてお聞きします。(1つ選択、「ほとんど閲覧していない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)



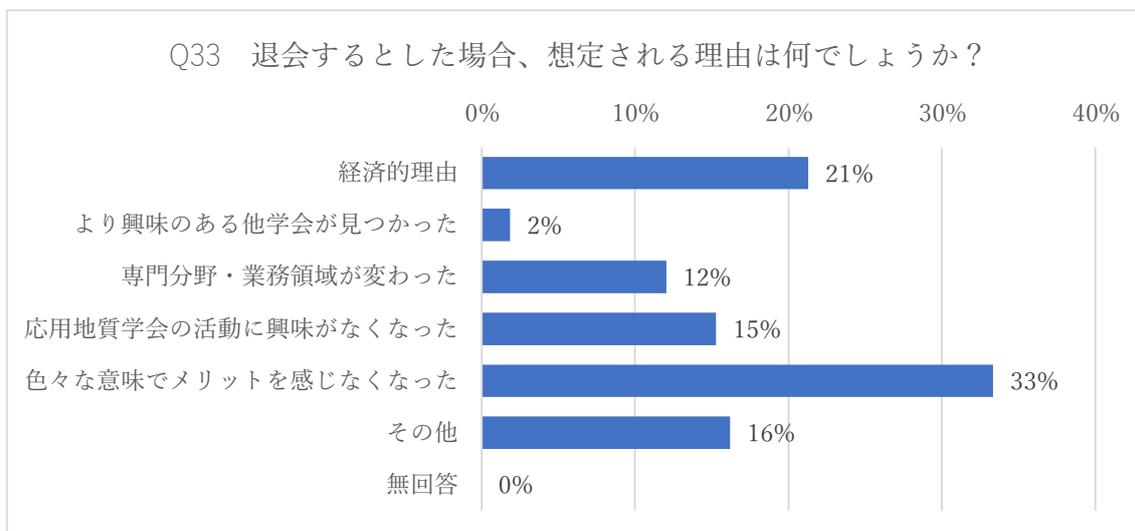
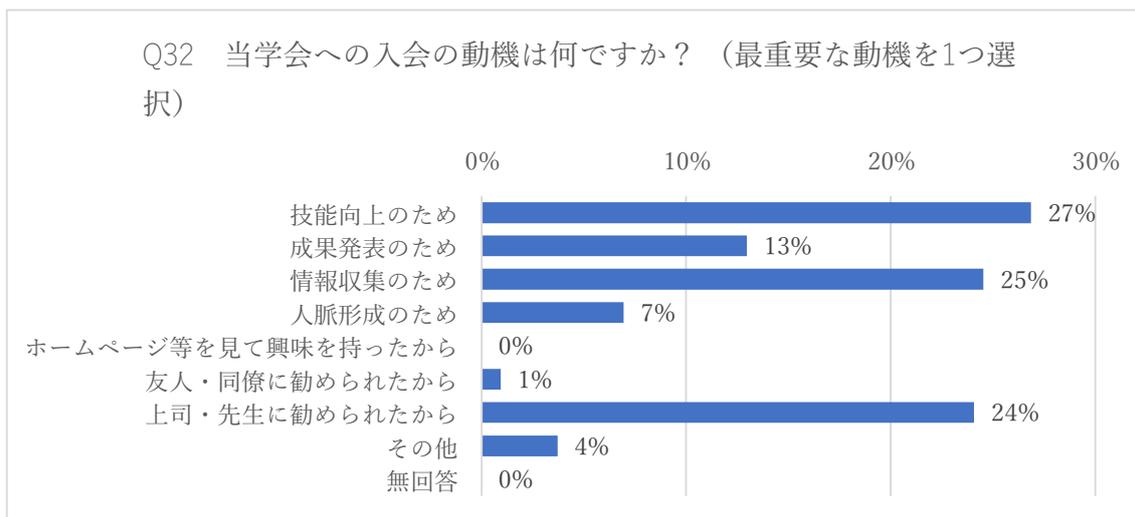
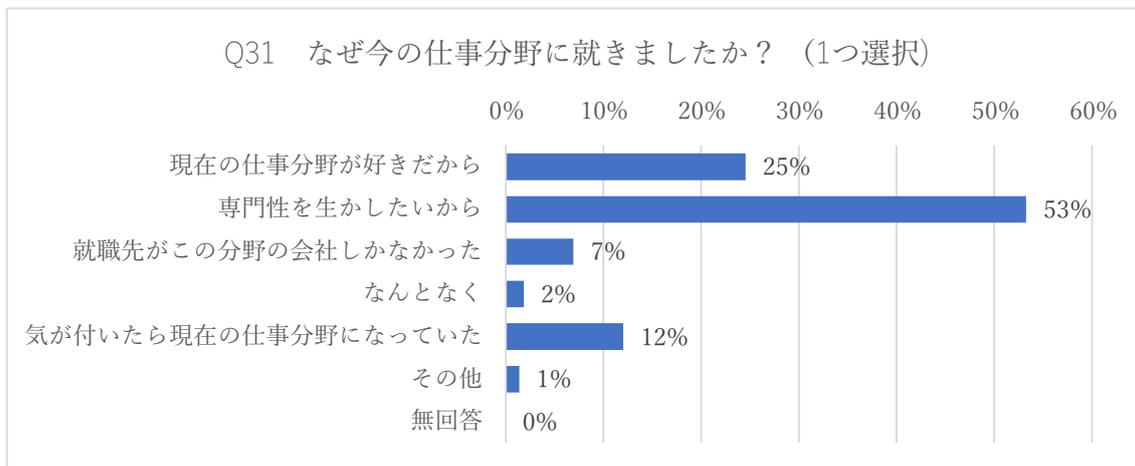
Q28：「閲覧しない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

Q29 ニュースリストについてお聞きします(1つ選択、「ほとんど内容を確認していない」「受信設定をしていない」を選択した会員は次の設問で理由をお書きください)

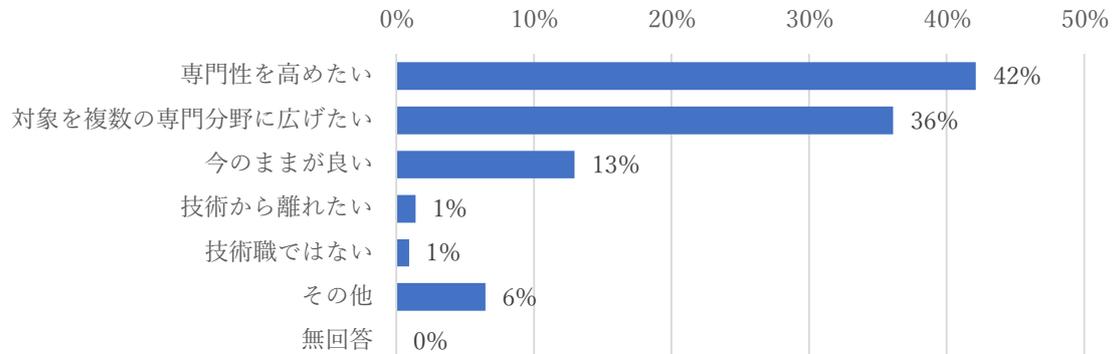


Q30：「内容を確認しない、受信しない理由」は、個人情報が含まれる回答があるため省略

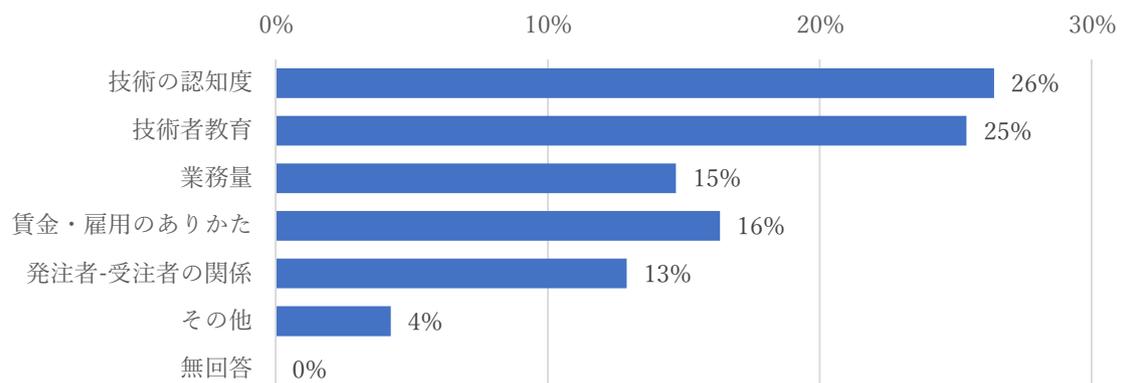
3. 貴方ご自身の応用地質学分野に関するお考えについて： 応用地質技術者・研究者（応用地質学会会員）の皆様が、応用地質学（学会とこの学問を取り巻く環境）をどのように感じているかについて、率直なご意見をいただきたいと思ひます。



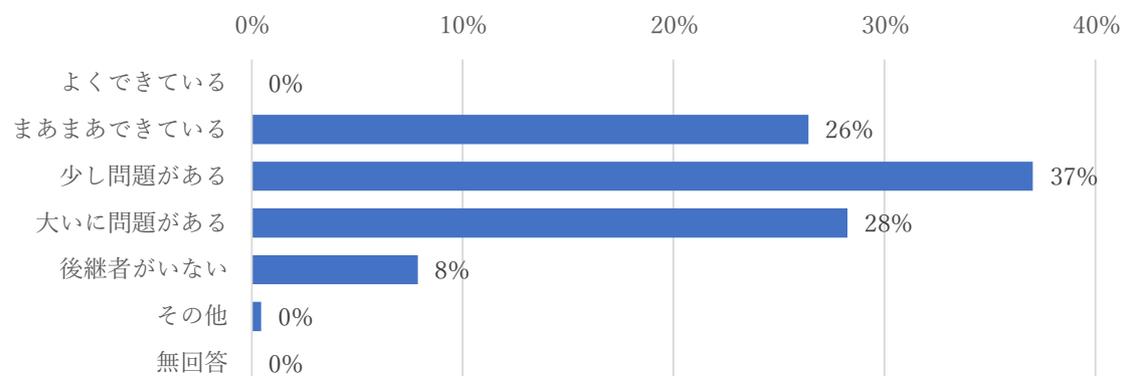
Q34 自分の専門分野について、今後どのようにしていきたいとお考えですか？（1つ選択）



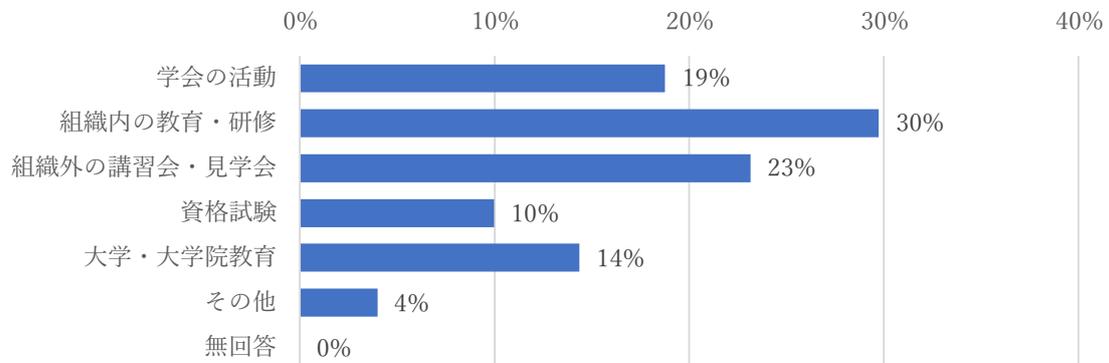
Q35 応用地質学の技術者・研究者を取り巻く環境に関して、最も大きな問題は何でしょう？（3つまで選択）



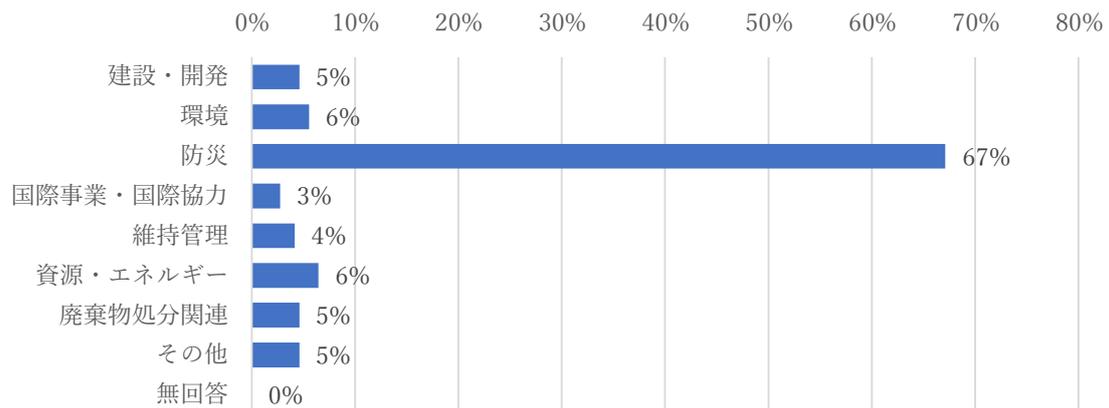
Q36 自分の専門分野について、技術の継承・発展はできていると感じますか？（1つ選択）



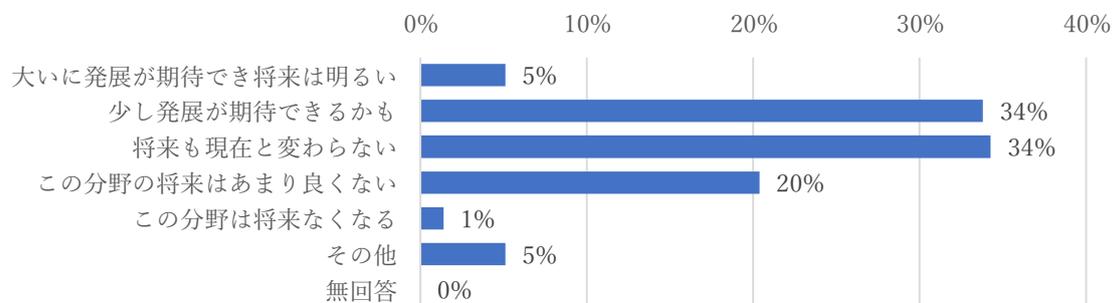
Q37 技術の継承・発展のために何が重要な役割を果たしていると感じますか？(3つまで選択)



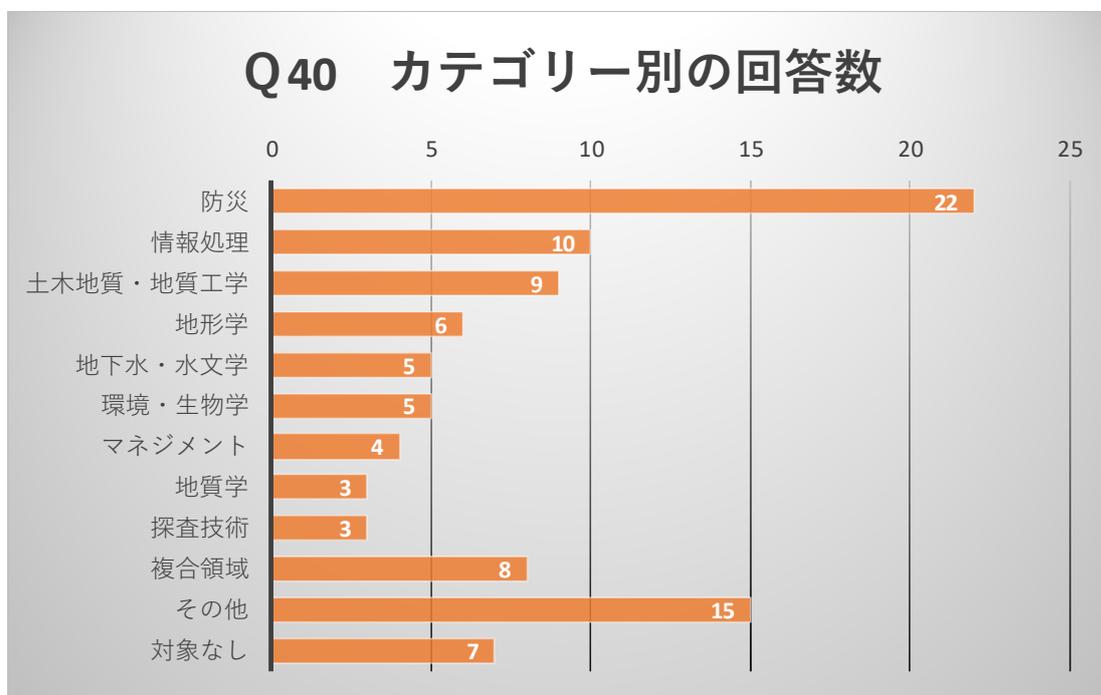
Q38 応用地質学が現在直面している最重要な対象領域は何でしょうか (1つ選択)



Q39 応用地質学の将来について (a~eから1つ選択・ないし f に自由記載)



Q40 今後修得したい・さらに向上させたい専門分野・技術領域があれば記入してください。
(自由意見)



回答者数=97

自由意見中のキーワード

【防災】地すべり、表層崩壊、土石流、砂防、建設マネジメント、リモートセンシング、維持管理、斜面防災、気候変動と斜面変動の関係、情報発信の方法、異常気象、分野横断、地震・津波

【情報処理】GIS、AI、BIM/CIM、VR、AR

【土木地質・地質工学】ダム岩盤分類、国際協力、グラウチング、新技術、地盤解析、地下水シミュレーション

【地形学】地形判読、気象学、応用地形学、最新技術の画像解析（LP、MMS、ドローン）

【地下水・水文学】地下水挙動、水文地質、エネルギー、大深度地下、国際的研究（乾燥地域）

【環境・生物学】生態系、森林、社会環境地質学、微生物

【マネジメント】地質リスク、技術マネジメント

【地質学】活断層、地質解釈、新技術

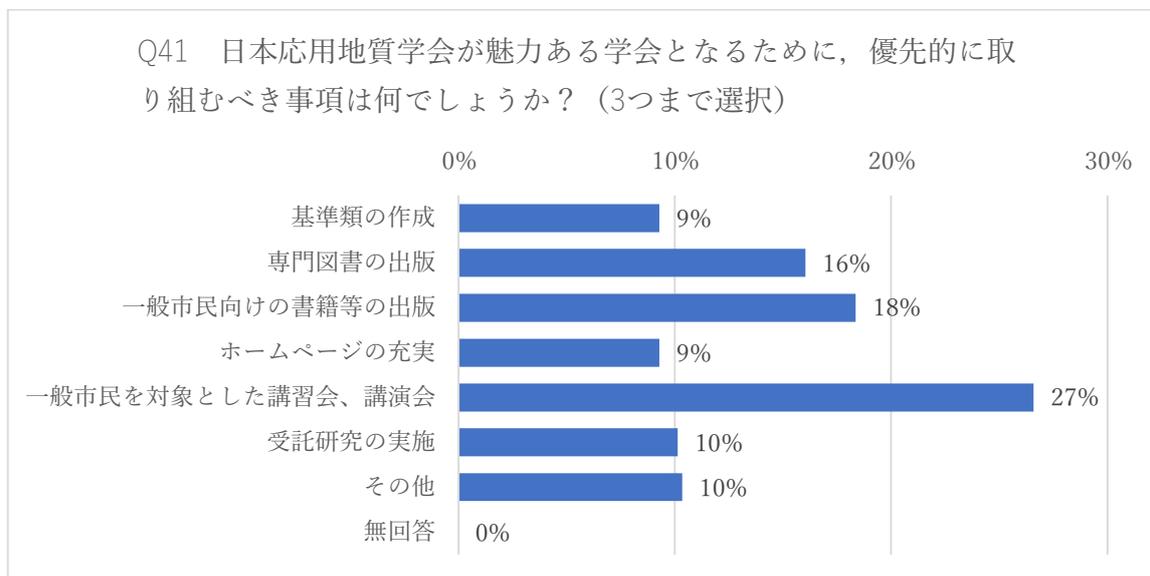
【探査技術】リモートセンシング、電気探査、弾性波探査

【複合領域】地下水、地すべり、河川工学、土壌学、鉱山・資源、環境地質、岩盤工学、水理地質、国土計画、政策立案、デザイン

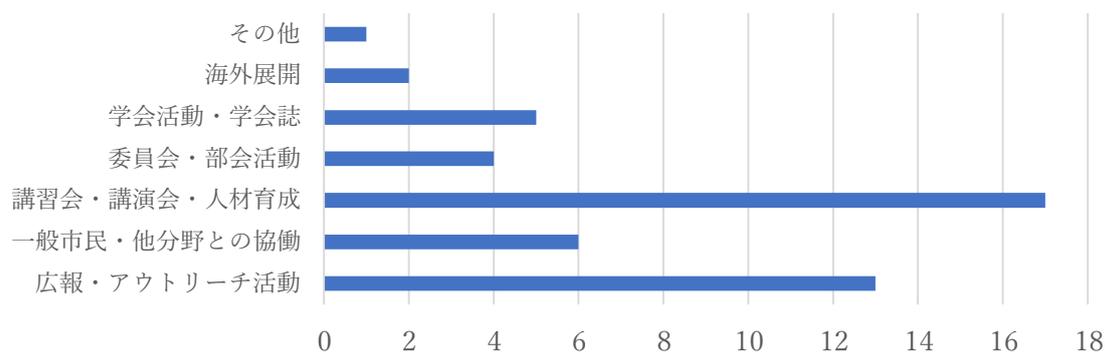
【その他】維持管理・再開発、不動産取引、放射性廃棄物、粘土鉱物、社会心理学、社会科

学、アウトリーチ、大規模構造物、原子力発電所、新幹線の建設維持管理、コア判定と岩盤評価の整合性向上

4. 上記を踏まえた学会への要望について：学会は、若手入会者の減少と会員層の高齢化に直面しています。今後、若手・中堅の技術者・研究者にとって魅力のある学会、シニアにとって実り豊かな活動の場となる学会、多様な人々の活躍・交流を支援できる学会として発展を続けるために、どのような活動が求められるか、学会に対するご意見・ご要望をお聞かせください。



自由意見：カテゴリ別の回答数（N-48）



自由意見中のキーワード

【広報・アウトリーチ活動】手段：SNS（Twitter, Instagram, Facebook, Youtube 等）、CM、広告、メディア利用、プレスリリース

目的：地位向上、対象：大学生、内容：学会の必要性、応用地質学が世の中の役に立つこと、災害以外の日常的な経済活動への関与

【一般市民・他分野との協働】手段：ワークショップ、研究と発表、内容：災害時協力（他学会）、啓発活動（他学会）、防災（市民）、社会的関心のある課題

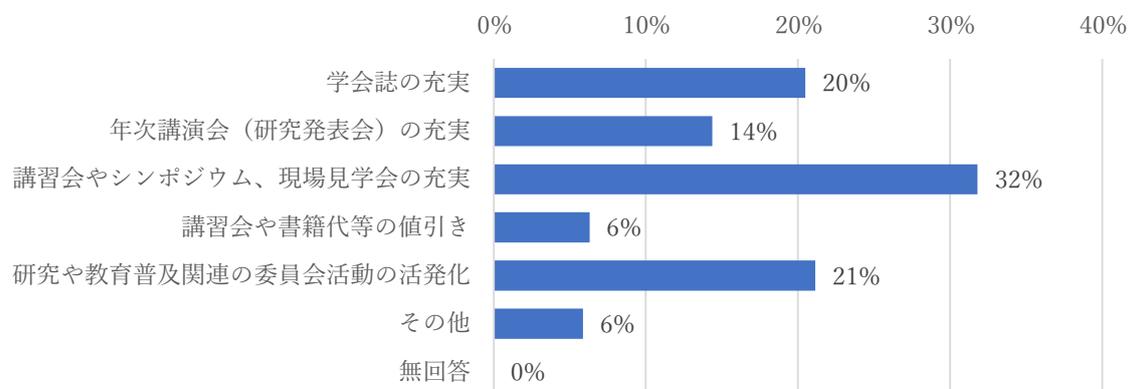
【講習会・講演会、人材育成】内容：応用地質学基礎分野、時代を先取りした技術、実務に役立つ、対象：シニア→若手・中堅、若手、学生、初級技術者、会員、高校・大学・大学院
オプション：CPD付、無料、大学との協力、形態：ワークショップ、シンポジウム、講習会

【委員会・部会活動】参加者：中堅（若手）、多様な人材、固定化しない・より多くの会員ありよう：既往活動の持続性確保、任期を数年に限定

【学会活動・学会誌】手段：研究発表の場の提供、オープンアクセス化、意見交換会、内容：論文の掲載とレベルアップ（学会誌）

【海外展開】内容：業務支援、シニア技術の海外展開

Q42 会員になっていただく、あるいは会員を継続するためのメリットとして、学会が優先的に取り組むべき事項は何でしょうか？（3つまで選択）



自由意見中のキーワード

【会費】対象：若手、学生、シニア、内容：割引

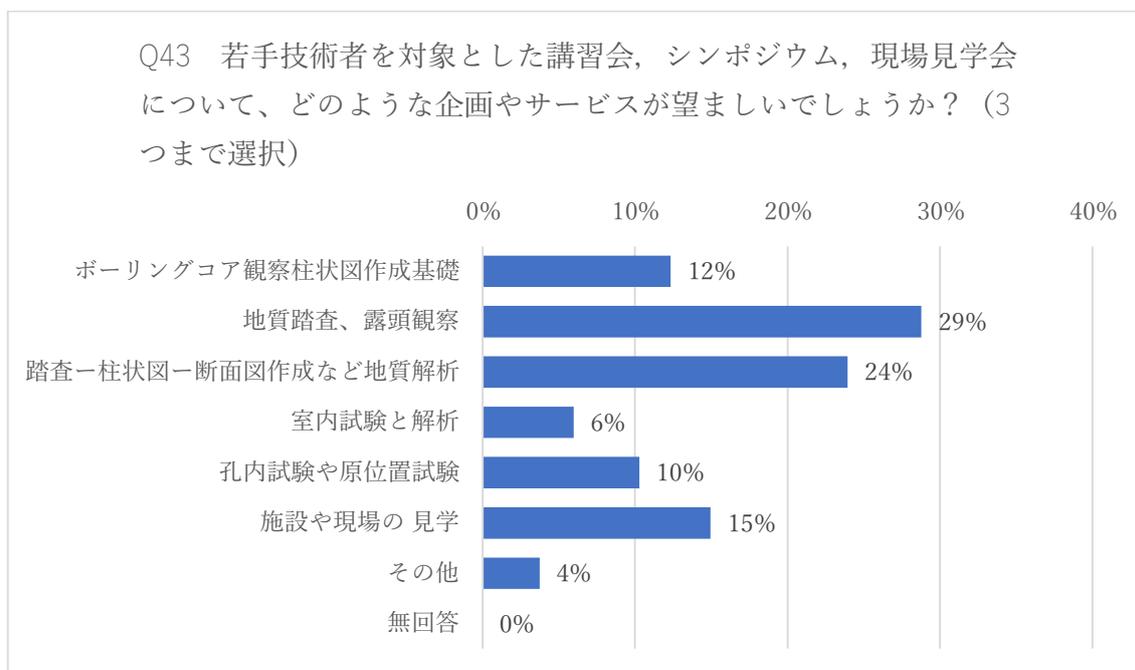
【アウトリーチ活動】対象：市民、中高生、内容：技術公開・伝承、ジオツーリズム、社会的活動

【対外活動】目的：市場規模拡大、技術分野創造、プレゼンス向上、会員技術力向上、会員社会的地位向上

【講習会・講演会】オプション：CPD付無料、web視聴、学生や若手が参加しやすい、内容：業務・実務に関連、地元中小零細地質調査会社技術支援

【委員会・部会・支部活動】対象：学生、シニア、より多くの会員、内容：委員会への参加促進、研究コミュニティ充実、地域に根差した活動

【学会活動・学会誌】内容：受託研究、論文投稿先としてのステータス向上、手段：デジタル化



自由意見中のキーワード

【地形判読】

【新技術】GIS/CIM、i-construction、若手に求める技術（大学で学ぶ機会の少ないもの）、企業内で習得しにくい知識・技術

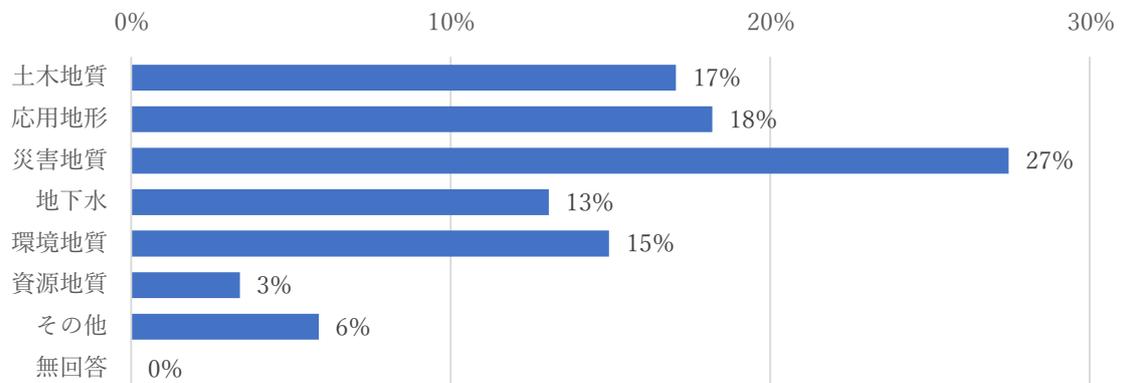
【国際交流、国際的視野】

【既存技術の活用方法】

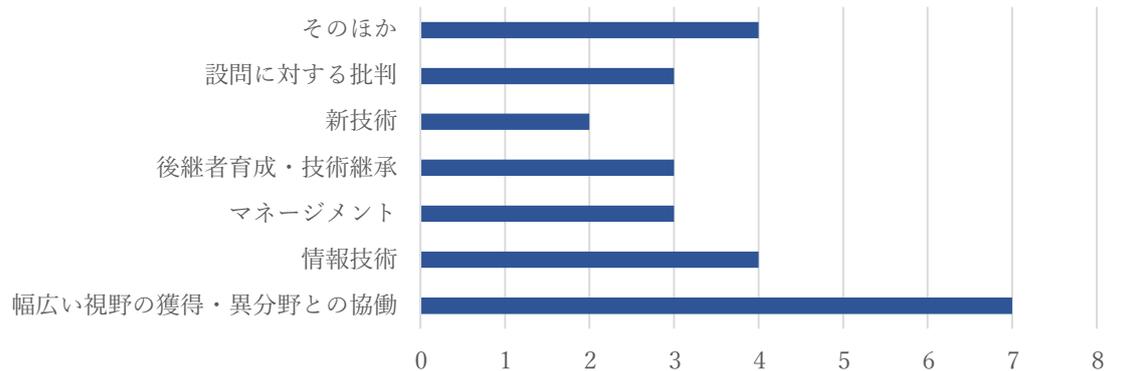
【防災、災害現場視察】

【その他】若手ー上級技術者を結ぶメンター制度、地質リスク、特定分野に限定する必要がない、毎年異なる分野の講習会

Q44 中・上級技術者を対象とした講習会、シンポジウム、現場見学会について、どのような企画やサービスが望ましいでしょうか？
(3つまで選択)



自由意見：カテゴリー別の回答数 (N=26)



自由意見中のキーワード

【幅広い視野の獲得・異分野との協働】基礎的な土質力学、防災技術、化学的性質や水理、幅広いコンサルティング技術、社会の要求への対応

【マネージメント】地質リスク、リスク・ハザード評価

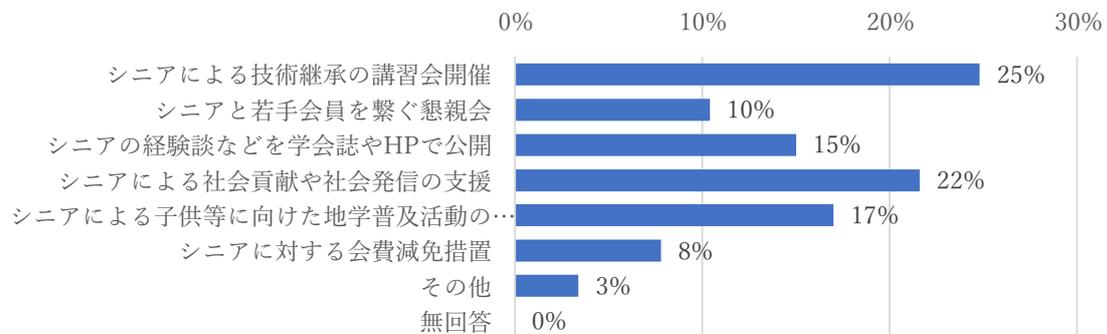
【後継者育成・技術継承】研究部会への招聘、メンター制度、わかりやすい解説、地方での講習会

【新技術】話題性、ドローン

【設問に対する批判】若手と区別する必要はない

【そのほか】海外研究紹介、技術者倫理、維持管理、シニア就職

Q45 学会員の大多数を占めるシニア層に学会活動を楽しんでいただく、あるいは活躍していただくに際し、学会として優先的に取り組むべき事項は何でしょうか？（3つまで選択）



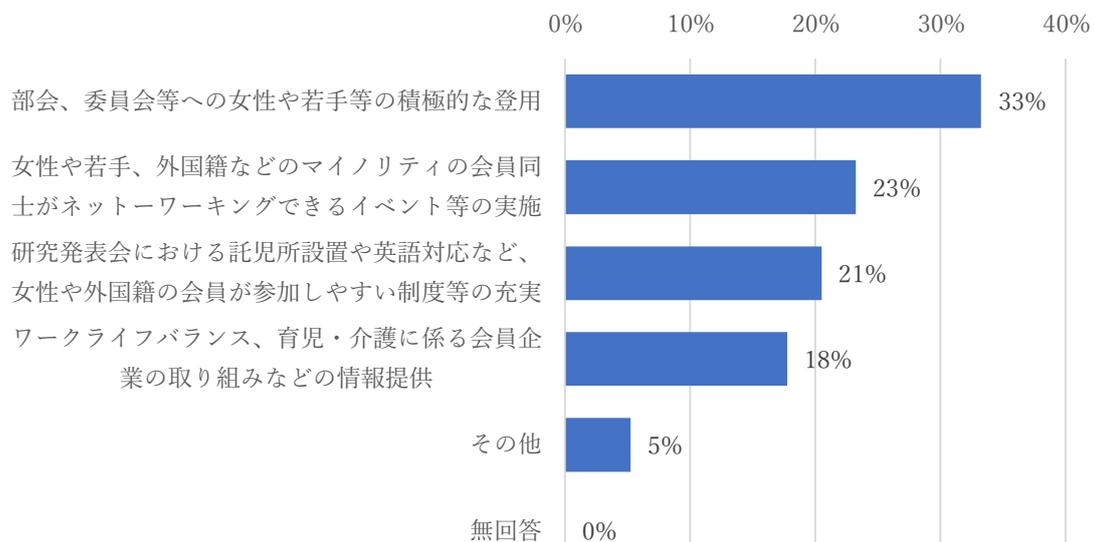
自由意見中のキーワード

【シニア活動の推進】研究助成、議論主導の役割、失敗談講習会、委員会参加促進、現役として活動、有償技術支援、就職、永年会員表彰顕彰制度、大学教育

【現役世代の活性化】若手優先、若手に道・委員会活動を譲る

【その他】伝える手法の共有

Q46 応用地質学分野のダイバーシティ推進（＝会員の多様化の推進）のために学会が優先的に取り組むべき事項は何でしょうか？（3つまで選択）



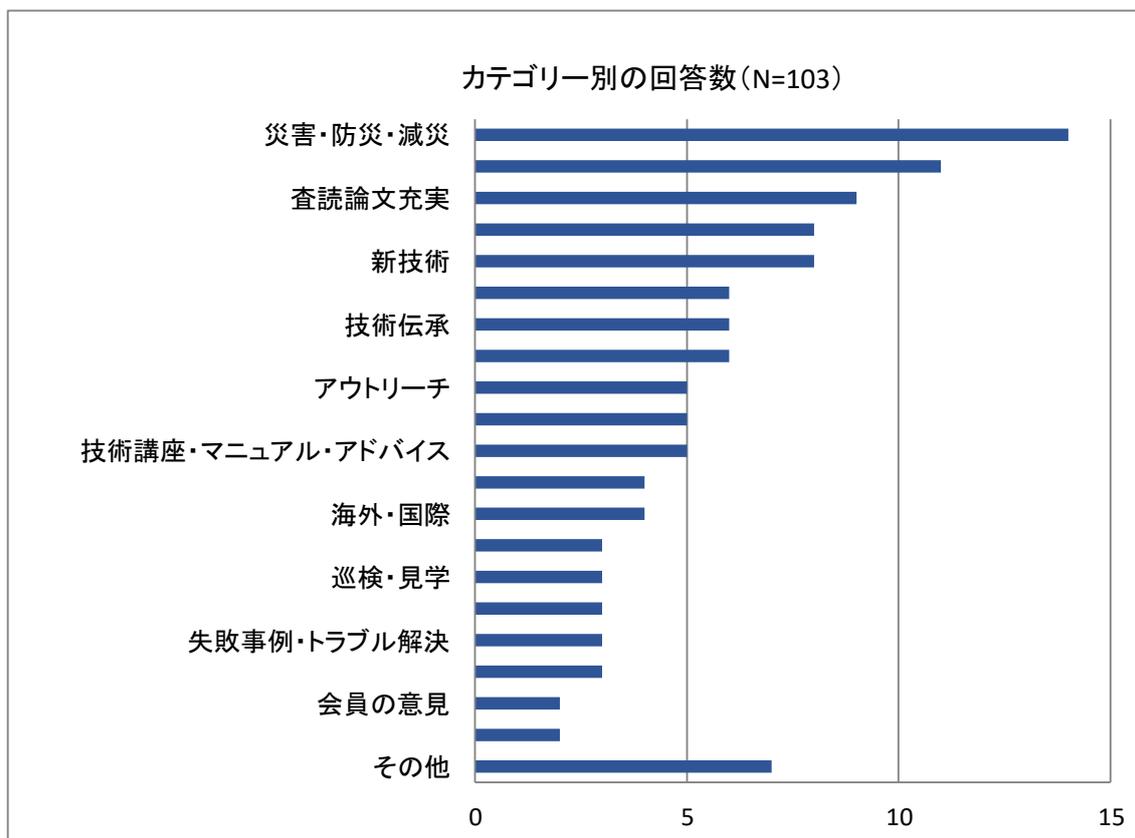
【会員の勧誘や学会の認知度向上】高校生・大学生の分野認知、会員企業や教育機関による勧誘、ネット広告、省庁・自治体への働きかけ、学生会員の会費無料、30歳以下の会費半額

【分野の拡大、学会活動の活性化】 一見関係の低い他学会との共催、ジオパーク

【ニーズの把握と具体的な仕組み・制度の構築】 託児所、職の斡旋、議論の場（web 会議など）、女性のニーズ、楽しい集まりの継続

【活動の必要性はない】 こびる必要性が理解できない、女性や外国籍が少ない、問題とするような学会か？

Q47 学会誌の充実に関し、どのようなテーマや企画が望まれますか（自由記載）

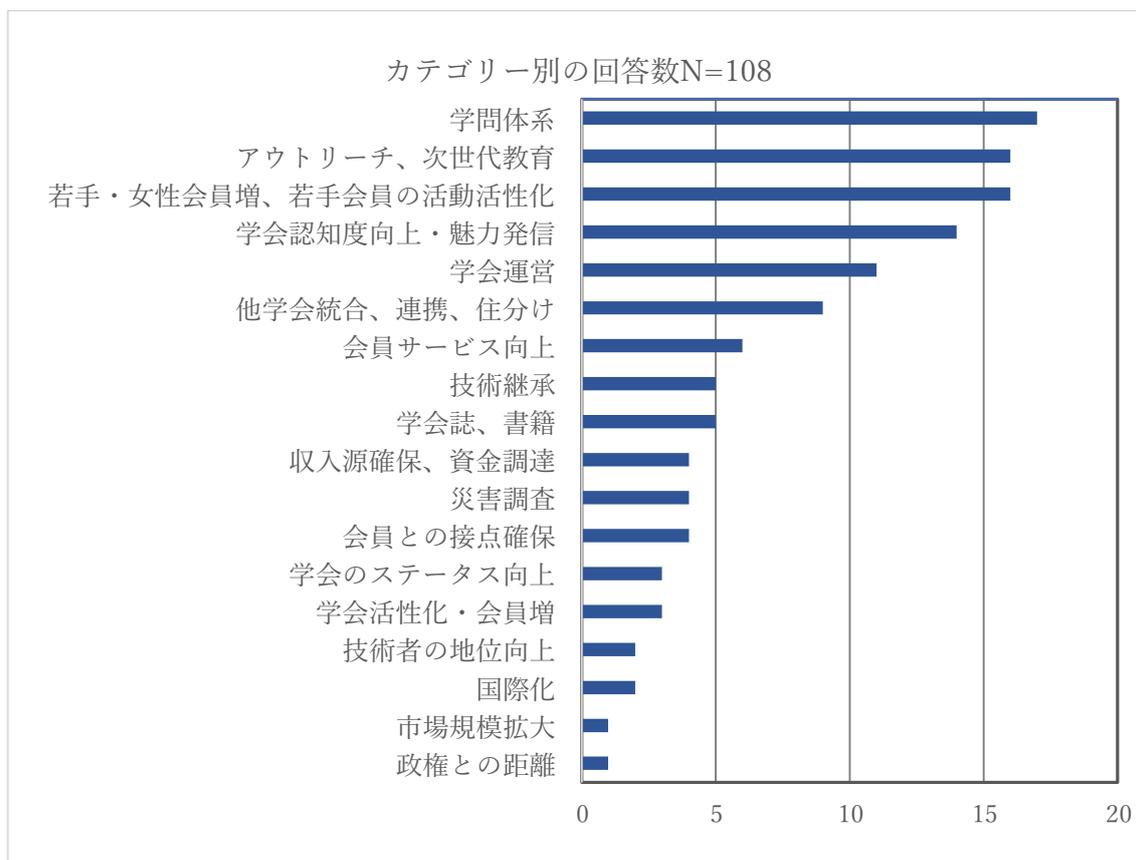


自由意見中のキーワード

【テーマや企画に関するもの】 災害・防災・減災、他分野・周辺分野・関連領域、新技術（ドローン、AI 等）、現場実務・業務事例、技術伝承、基礎技術（地質学、スケッチ、地形判読、応用地質学、数値解析）、連載記事、技術講座・マニュアル・アドバイス、アウトリーチ、海外・国際、特定のテーマの特集号、巡検・見学、ジオメリット・文化、女性・若手・マイノリティ、失敗事例・トラブル解決、熟練技術者、会員の意見

【学会誌のありように関するもの】 査読論文の充実、ペーパーレス化・発行回数再検討、投稿システム改善

Q48.学会の将来について、課題や学会が取り組むべき内容についてお聞きします（自由記載）



自由意見中のキーワード

【学問体系、新技術、異分野交流等】応用地質学としての科学技術論、独自性発揮分野、分野拡大、知識の蓄積、技術の更新、周辺分野への普及、事例紹介、学際的な取り組み、一次データを生み出す重要性（スケッチ、判読、コア観察など）、災害・防災、プレゼン技術の向上、CO₂地中貯留、IT・AIなどの技術、地質工学的、地震予知、土木設計への寄与、異分野交流

【アウトリーチ、次世代教育】応用地質に対する世間のニーズ把握と対応（防災など）、防災・減災、マスコミとのコラボ、インフラ整備・開発事業に伴い発生する環境・災害課題、地域防災計画、中高生対象、公開授業、応用地質学の俯瞰的な理解（大学教育）

【若手・女性会員登用、若手会員の育成等】若手向けシンポ、見学会、講習会（業務に直結・ヒントになる）、研究小委員会登用、入会・活動・発言しやすい雰囲気作り、負担の少ない活動、防災分野で活躍できる人材育成、若手や女性が参加しやすい雰囲気、座談会のような少人数で話しやすいイベント

【学会認知度向上・魅力発信】一般市民、学生、行政、入会直後の会員向け、若手技術者・担当者向け、ウェブサイト、プレスリリース、情報発信に値する企画の創出、有名な会員の講演、大学への会誌配布、学会の独自性の発信、ネットの活用